



発行 真宗大谷派 飛騨御坊真宗教化センター
発行者 三島 多聞
〒506-0857 高山市鉄砲町6番地
☎(0577)32-0776
*毎月20日発行 50,000部
三市一郡無料配布
印刷 山都印刷株式会社

念じられ 照らされて

震災十年、被災者とう向き合うか

栗田暢之



〔略歴〕
一九六四年、岐阜県瑞穂市生まれ。真宗大谷派仁成寺住職。認定NPO法人レスキューストックヤード代表理事。宗派組織部嘱託職員(ボランティア委員会)。

「みそ汁の作り方を忘れた」。東日本震災でようやく仮設住宅が整備されつつあったお盆過ぎのころ、一人暮らしの高齢女性を訪ねた時の言葉です。長年、父ちゃんが「んめえ」と食べてくれたからこそ炊事。当たり前だった日常を突然失い、「一緒に流されればよかった」とさえも言われました。その後も時間の経過とともに、多くの被災者から「生きるも地獄」という言葉を耳にしました。失った住まいの確保、二重ローン、失業、再就職など、生きることは結局お金にまつわる現実が突き付けられるからです。あれから十年が経過しましたが、被災者にしてみれば単なる通

過点であり、今なお生死の不条理や生きづらさに向き合っている人々がいまも。 「震災前に戻りたい」「震災前は孫と一緒に住んでいたけれども、もう戻ってこないと思う」。震災は大惨事となった原発事故をも引き起こしました。今も、「戻る・戻らない・戻りたくても戻れない」と心は揺れ続け、時間だけがあつといるに過ぎました。分断は家族のみならず、親戚、友人、地域にも暗い影を落としています。これは福島県だけの問題ではなく、ホットスポットと呼ばれた隣県や関東からの避難者も同様です。この間、離婚や別居、死別などの家庭環境の変化、子

どもの成長とともに、特に母子避難を直撃する出費の増加、高齢化に伴う孤独や孤立、コロナの影響による収入減などにより、さらに不安定な生活に追い込まれている方も少なくありません。しかし、世間の風化は著しく、「いつまで避難を続けているの？」との心無い言葉に、「無かったもの」とされるような理不尽さに怒りを通り越して諦めるしかないと言われている人々がいまも。 こうした現実に対して、自分でできることは何かを考え、これまで何度も被災者や避難者の元へ足を運んできました。しかし、結局何一つ解決はなく、自身の無力さだけが残ります。

災害と疫病はまさに現在進行形の大きな課題ですが、親鸞聖人が生きた時代は、加えて、飢饉や争いをもっと近いところで繰り返されてきたのでしよう。社会に翻弄されながらも、その日を懸命に生きる人々と暮らしを共にする中で、「いし・かわら・つぶてのごとくなるわれらなり」と言われました。「われら」とは、ともに本願におまかせするしかない身である我らです。私は、ここがわかっていない。被災者や避難者とそのつど関わり合う中、自分の無力を感じた時点で、まるで自分に何かできるといった勘違いをしている身があまりだされまます。 「十年前は中学生だったから、震災直後できないこともあった。今は、大人の一人として、震災の時に助けてくれた大人のように、自分のいのちを大切にしながら一生懸命生きていこうと思ってる」。今、被災地の多くの若者が、力強い発信をし始めています。これらを聞くと、またもや私に何かしてあげたいと考えてしまいます。性懲りもないですが、わかっていないからこそ、こうした生の声に向き合い続けることで、「われら」の本質を尋ねていきたいと思っています。

別院定例法座 午後1時から
2月28日(日) 親鸞聖人御命日法座
講師 樋口 博之氏 (常照寺住職)
講題 「自力と他力」

春の彼岸会・永代経法要
亡き方をご縁として仏法に出会う大切な仏事です。ぜひお参りください。
3月17日(水)～23日(火)
午後1時から勤行・法話
17日(水) 内記 浄氏 (往還寺住職) 「ナムアミダブツ 我が世に処するの道」
18日(木) 小原 正憲氏 (専念寺住職) 「悪性さらにやめがたし」
19日(金) 旭野 康裕氏 (永養寺住職) 「人材として働き 愚かさに気づく道に帰る」
20日(土) 三島 多聞氏 (別院輪番) 「懺悔と反省」
21日(日) 橘 出氏 (高山教務支所駐在教導) 「正信偈のころ」
22日(月) 白尾 公信氏 (了心寺住職) 「彼岸とは」
23日(火) 三枝 正尚氏 (隨縁寺住職) 「聖徳太子 1400回忌に寄せて」

嘉念坊善俊上人 祥月命日法要のご案内
日時 3月3日(水) 午後1時～
場所 別院本堂
※本年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、総会及び講演は中止とさせていただきます。内勤めのお勤めのみとなりますが、一般の方の参詣はできますので、どうぞお参りください。

第38回 真宗公開講座 日程変更のご案内
コロナ感染予防のため、予定していた講座の日程を変更させていただきます。なにとぞご了承くださいませようお願いします。
第3回講座 講師：朝戸臣統師 (神通寺住職)
2月22日(月) → 5月24日(月) 午後7時
第4回講座 講師：和田英昭師 (照明寺住職)
3月15日(月) → 6月17日(木) 午後7時
※第5回 尾畑文正師の講座は予定通り4月21日 午後2時より開催

聖教学習会 (第2回)
講師 藤元 雅文氏 (大谷大学准教授)
日時 3月12日(金) 午後1時30分～午後4時
テーマ 『正信偈』に学ぶ
会場 別院2階 研修室
参加費 500円
※このたび、新型コロナウイルス感染拡大の状況に対応するため、次の参加方法を設けることとなりました。
①平常通り会場に来て聴講する。(感染予防に留意)
②パソコン・スマートフォンを使い、自宅でオンライン視聴する。(前日までに takayama@higashihonganji.or.jp までメールしてください)

宗教トラブル相談窓口 ☎0577-1321-0763

家族で話そう

人生の

「こんなこと」「あんなこと」

「おとな」と「子ども」

佐賀枝 夏文

ボクは子どもと関係する仕事をしてきました。その動機について聞かれることがあります。即答できないのですが、ボクには空白の子ども時代があったからかもしれません。

生涯発達について

「おとな」と「子ども」について考えてきたことをお話ししてみます。人間をなぜ「おとな」と「子ども」とで区別するのかわかることからはじめました。一般的に「子ども」イコール発達と

考えられています。「子ども」には確かに発達段階があり、特徴のひとつと考えられています。しかし、発達理論をつくりあげたエリクソンもピアジェも人間の生涯全体を発達と考えました。「子ども」の心身の発達段階に対して、「おとな」は心身の減衰段階を「生涯発達」として考えたものです。「子ども」の発達の姿と「おとな」の発達の姿は違いますが、「子ども」から「おとな」へ一貫した生涯発達を続けると考えることは大切なことのようにおもいます。

「無為な子ども」と

「有為なおとな」について

つきにお話をすすめます。保育

の現場で理解したことがあります。「子ども」たちは、どのような場面でも何かの為にすることは

ありません。いいかえれば目的を達成する為に遊んではいません。水や砂、小石と際限なく遊べるのは「無為」だからでしょう。

「子ども」のいつまでも続くくり返しも「無為」の世界といえます。それに対して「おとな」は目的のないことはしません。「おとな」がもし走るとすれば、早く着きたいからという理由があり、または、遅れないためにですから目的があつてのことです。「おとな」は何かの為にするのですから

「有為」といえます。「おとな」は「子ども」によくいます。「ちゃんとしなさい」「早くしなさい」「ダメでしょう」と。そこには「おとなの有為」な目的があるからに違いありません。よく「子ども」が「イヤだ」「もつとしたい」と主張する

場面には遭遇します。「おとな」の目的意識と「子ども」の無心な無為な世界との違いを垣間見ることになります。しかし、この違いや衝突を回避して、こうすべきということではありません。「無為な子ども」であり、「有為なおとな」であることを理解して知ることが大切で、育ちの目的は「子ども」たちを「有為なおとな」にすることではないようです。窮屈な

「おとな」であるわたしたちが「子ども」の無心に無為自然な世界に接してこころを解きほぐされたいのかもしれない。

「おとなの時間」と

「子どもの時間」について

わたしたち「おとな」と「子ども」では違う時間感覚があるようです。「おとな」の時間は、共通する「時計の時間」を中心に行動して暮らしています。「おとな」たちの社会生活は「時計の時間」を

共通認識として成り立っています。「おとな」たちは仕事時間や家庭時間を区別しています。「子ども」たちは時間を区別したりしていません。「子ども」たちは「分け隔てのない時間の世界」にいます。「おとな」は時計の時間で「量」を計り、長短を感じています。「子ども」には時計の時間感覚がないので「長い」「短い」という感覚がないのかもしれませんが、子ども時代の時間は実にゆつくりと流れるといえます。「おとな」たちは時間がとても速く過ぎると感じているようです。「子ども」は時間を区切ることもしませんから、「量」として感じることはありません。

「おとな」は限られた有量の世界を生き、「子ども」は無量の世界を生きているのかもしれない。



次回は尾角光美さんの「仏教×グリーフケア⑬」です。

テレビ番組「ごほうチャンネル！」

1月中旬に放映した第2回の番組内容がYou Tubeで視聴できるようにになりました。

※「ひだご坊」「ごほうチャンネル！」で検索してみてください。



ご坊さまの掲示板

頭を下げるが 頭を下げるが 変わる...私、内面を放逐されたよ。アタマが 上がりませんでした。

ひだご坊 一口法話 URL: https://hidagobo.jp/sermon/ 3月1日~ 宮本美和子氏 (長圓寺門徒) 3月16日~ 上清水信男氏 (西蓮寺門徒)

「お詫びと訂正」前号「念じられて照らされて」の著者「略歴」につきまして、生年一九六〇年と記載しておりましたが、一九六四年の誤りでした。

お仏壇 仏壇工芸 ほりお 高山市三福寺町369-7 TEL0577-33-6686

春のお彼岸セール 念珠フェア 好評開催中!

高山市プレミアム商品券取扱店 ブックス・アイオー TEL0577-341766

池田電工 電気のいろいろなお悩み解決

大谷婦人会 3月11日(木)午後1時から 定例法座 三島多聞別院輪番

ごすぎACT LINE 始めました。仏具の修理、写真を撮ってLINEから見積り依頼。

保険タイム 建築写真・測量用の撮影・PR映像 高山市桐生町71503

久寿玉 KUSUDAMA 蔵元春限定 純米大吟醸 生酒 発売中

慈愛・共なる灯り 高山電気工事株式会社

お風呂の暖かリフォーム 今なら高山市のバリアフリー補助金が使えます

相続 相談無料 河合亮一司法書士事務所

山都印刷株式会社 自主出版 編集・出版までお手伝い致します

お墓の新設 リフォーム クリーニング 墓じまい お墓のお悩み、ご相談ください。 株式会社 奥田石材 OKUDA